

株式会社トーア紡コーポレーション

令和6年12月期 第2四半期（中間期）

決算説明資料

（令和6年1月1日～令和6年6月30日）

令和6年8月9日

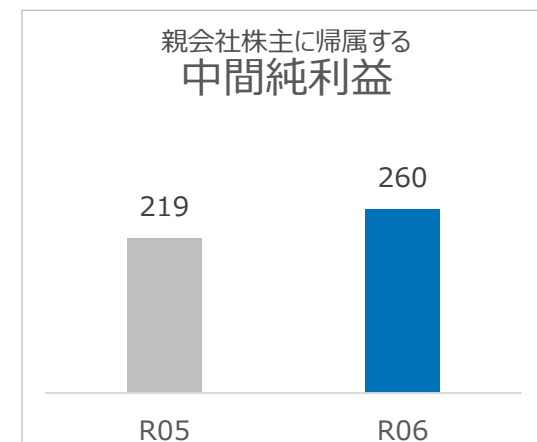
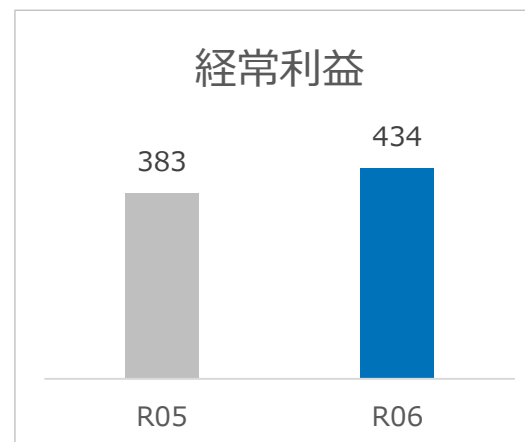
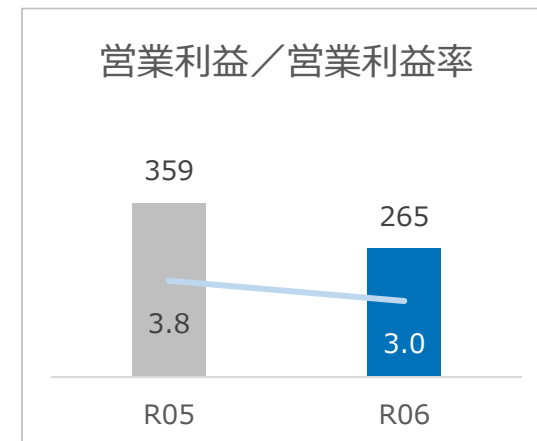
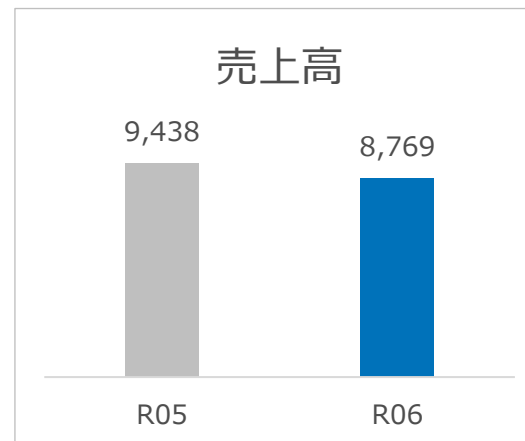
**TOABO**

- ▶ 令和6年12月期 第2四半期（中間期）業績 P. 2 ~ 11
- ▶ 令和6年12月期 業績予想 P.12
- ▶ トーア紡グループのSDGs P.13 ~ 16
- ▶ 免責事項 P.17

# 第2四半期（中間期）連結決算概要（金額：百万円）



	第2四半期(中間期)累計		前年同期比 増減率
	令和5年 12月期	令和6年 12月期	
売上高	9,438	<b>8,769</b>	△7.1%
営業利益	359	<b>265</b>	△26.2%
営業利益率	3.8%	<b>3.0%</b>	△0.8ポイント
経常利益	383	<b>434</b>	13.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	219	<b>260</b>	18.6%



前年対比で減収、営業利益は減益となるも  
為替差益等の営業外収益の増加により経常利益は増益

## 第2四半期（中間期）セグメント別概要（金額：百万円）

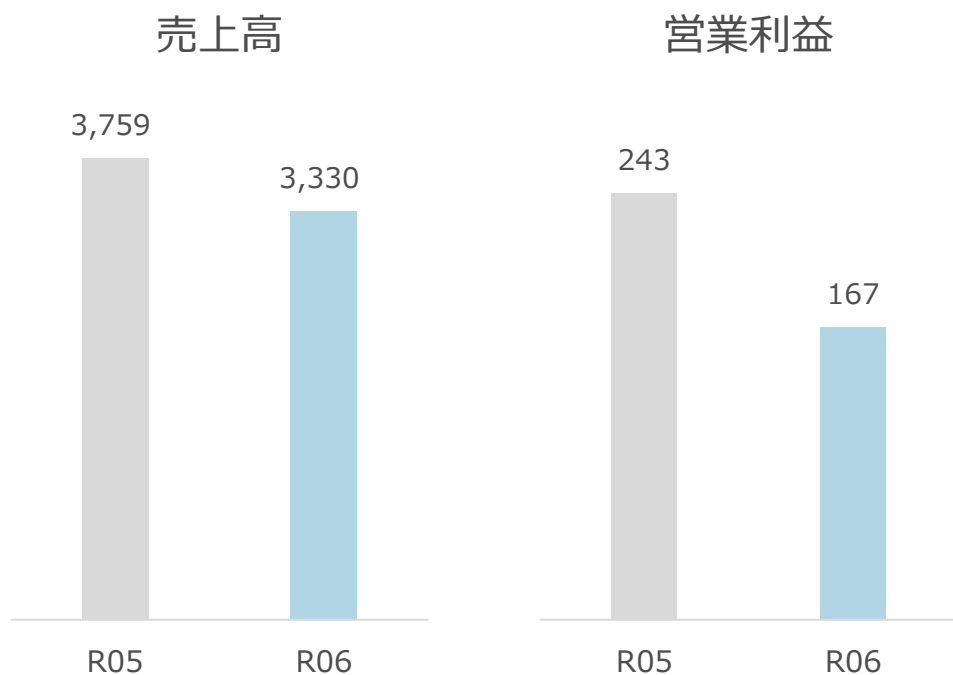
**TOABO**

	第2四半期（中間期）累計						前年同期比 増減率		
	令和5年12月期			令和6年12月期					
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
衣料事業	3,759	243	6.5%	<b>3,330</b>	<b>167</b>	<b>5.0%</b>	△11.4%	△31.2%	△1.5ポイント
インテリア 産業資材事業	3,542	83	2.4%	<b>3,476</b>	<b>86</b>	<b>2.5%</b>	△1.9%	3.8%	0.1ポイント
エレクトロ ニクス事業	826	△8	—	<b>756</b>	<b>4</b>	<b>0.6%</b>	△8.5%	—	—
ファイン ケミカル事業	602	31	5.2%	<b>417</b>	△17	—	△30.6%	—	—
不動産事業	453	263	58.2%	<b>451</b>	<b>259</b>	<b>57.5%</b>	△0.3%	△1.6%	△0.7ポイント
その他	253	△37	—	<b>336</b>	△51	—	32.6%	—	—
調整額 (販管費等)	—	△216	—	—	△184	—	—	—	—
合計	9,438	359	3.8%	<b>8,769</b>	<b>265</b>	<b>3.0%</b>	△7.1%	△26.2%	△0.8ポイント

# 第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要 （金額：百万円）



衣料事業		
売上高	3,330百万円	△11.4%
営業利益	167百万円	△31.2%
営業利益率	5.0%	△1.5ポイント



## 業績概要

昨年同期のコロナ禍明け特需の反動もあり苦戦

### 毛糸部門

- ▶ 昨秋の残暑の影響による前売り不振を受け、特にセーター用ニット糸の受注が伸び悩み減収

### ユニフォーム部門

- ▶ スクール制服向け素材は、大幅なコスト増により損益は悪化もモデルチェンジの流れが継続し増収
- ▶ 官公庁制服向け素材は別注案件の不振に加え納入時期の調整もあり減収
- ▶ 一般企業向け制服素材はカタログ案件が失速し減収

### テキスタイル部門

- ▶ 郊外店アパレルの在庫調整と円安の影響による使用素材の非ウール化への加速から減収

### 毛糸製造販売を主体とする中国現地法人

- ▶ 中国内販が低調で減収

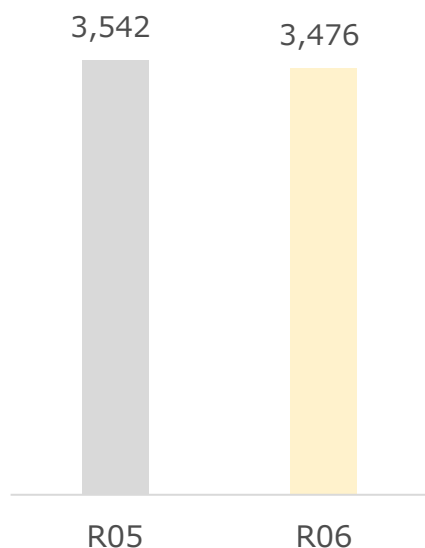
## 第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要（金額：百万円）

# TOABO

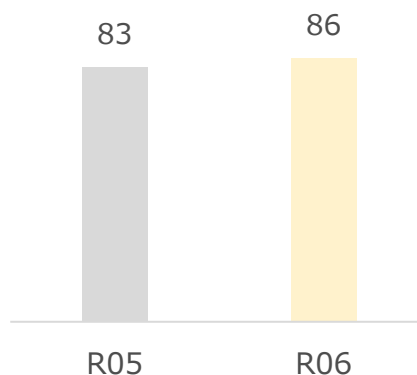
### インテリア産業資材事業

売上高	3,476百万円	△1.9%
営業利益	86百万円	+3.8%
営業利益率	2.5%	+0.1ポイント

売上高



営業利益



### 業績概要

#### 自動車内装材部門

- ▶ メーカーの認証試験不正による生産停止の影響を受け、出荷数量が減少したことに加え、材料の仕入値が下がらず減収減益

#### ポリプロファイバー部門

- ▶ カーペット用原綿の展示会、イベント需要が増え増収増益

#### カーペット部門

- ▶ 需要が落ち着き売上は減ったものの、原材料、電力、燃料の価格転嫁が進み減収増益

#### 特殊繊維部門

- ▶ 金属繊維は減産も、カーボン繊維が好調で増産体制に入り増収増益

#### 不織布部門

- ▶ 土木、緑化、防草向けの受注が減るも、寝装向けは順調に推移し、増収増益

#### 自動車内装材製造販売の中国現地法人

- ▶ 日系自動車メーカーの減産が昨年より続いていることに加え、中国ローカルEVメーカーによる在庫調整の影響を受け減収

# 第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要 （金額：百万円）

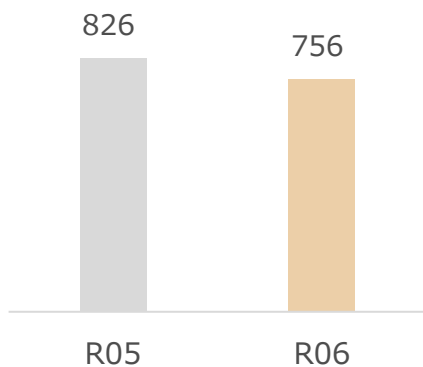
## エレクトロニクス事業

売上高	756百万円	△8.5%
営業利益	4百万円	前年同期は 営業損失8百万円
営業利益率	0.6%	前年同期は利益なし

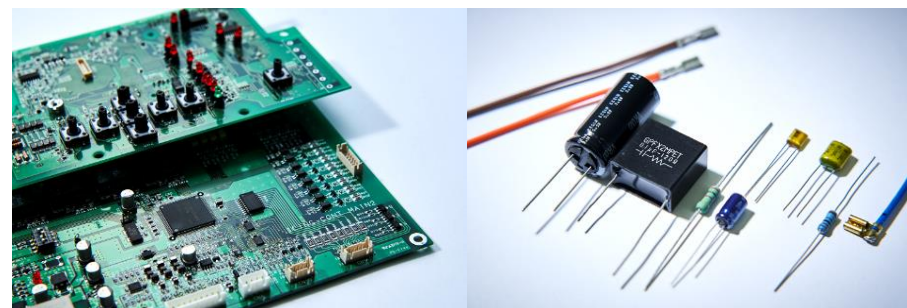
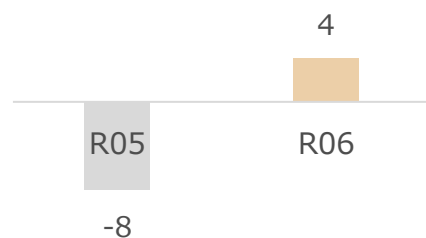
## 業績概要

- ▶ 主力の電動工具向けコントローラーは、得意先での在庫調整が完了して増産体制になり、受注回復が鮮明に
- ▶ パワー半導体の販売は、産業機器分野、家電分野での回復が遅れており、引き続き受注が低迷

売上高



営業利益



# 第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要 （金額：百万円）

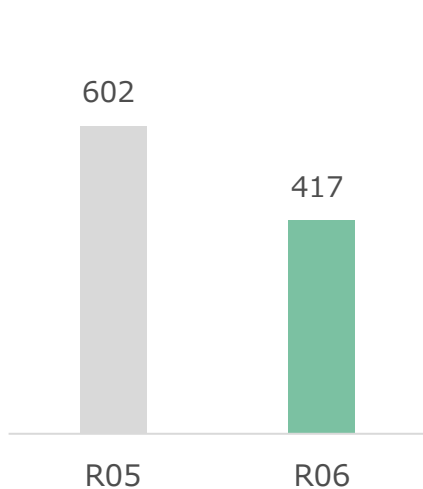


ファインケミカル事業		
売上高	417百万円	△30.6%
営業損失	17百万円	前年同期は 営業利益31百万円
営業利益率	—	前年同期は 営業利益率5.2%

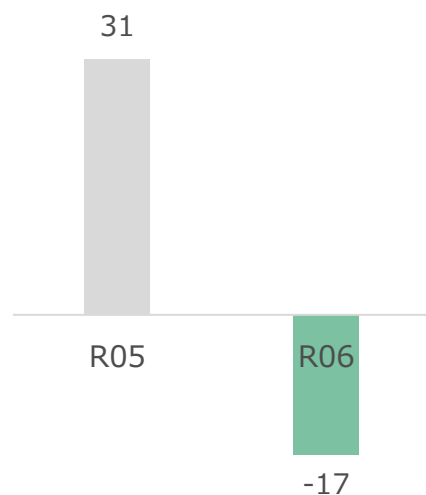
## 業績概要

- ▶ 電子材料分野は、デジタル機器や半導体向けの需要が未だ力強さを欠き、減収減益  
第3四半期からの本格的な復調が見込まれる
- ▶ ヘルスケア分野は、ジェネリック医薬品向けの受注が昨年と比べ緩やかに回復するも、電子材料の落ち込みを補うまでには至らず

売上高



営業利益





# 第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要 （金額：百万円）



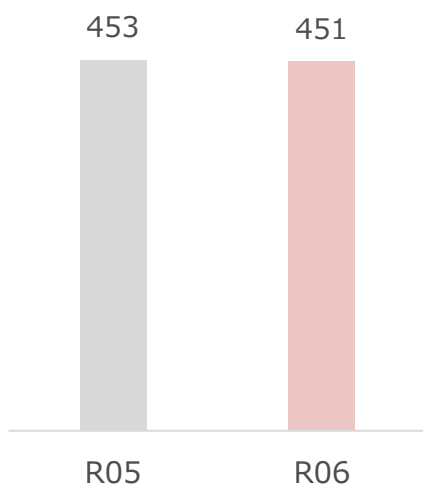
## 不動産事業

売上高	451百万円	△0.3%
営業利益	259百万円	△1.6%
営業利益率	57.5%	△0.7ポイント

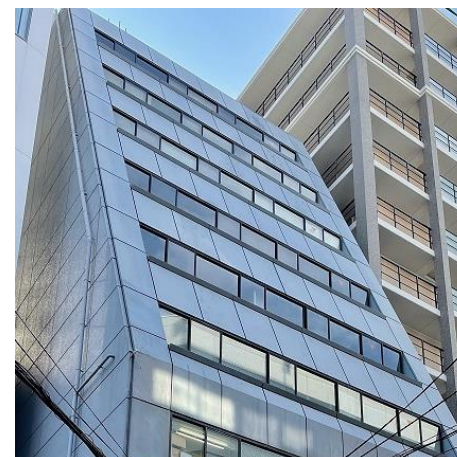
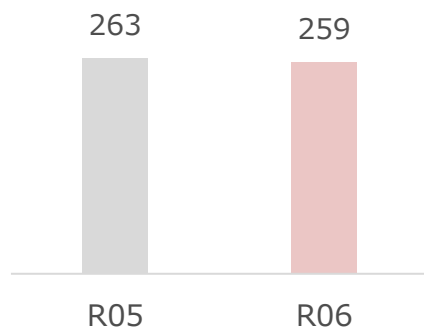
## 業績概要

- ▶ 一部テナントの撤退の影響と販売費の増加により減収減益

売上高



営業利益



# 第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要 （金額：百万円）



その他の事業		
売上高	336百万円	+32.6%
営業損失	51百万円	前年同期は 営業損失37百万円
営業利益率	—	前年同期も利益なし

## 業績概要

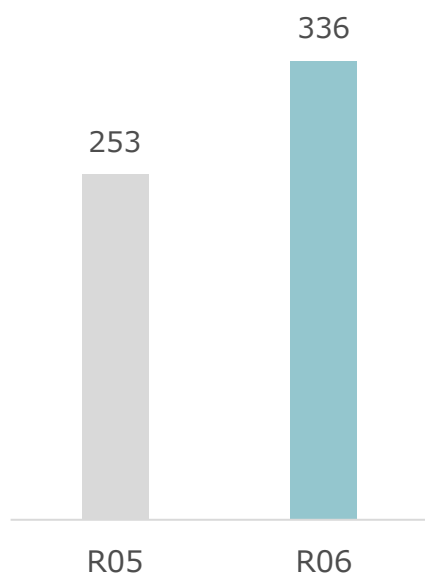
### 自動車教習事業

- ▶ 大学生に向けた営業活動に注力するも、低調な入校状況で推移し減収

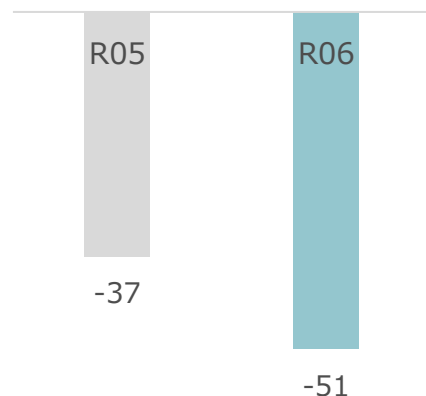
### ヘルスケア事業

- ▶ ムサシノ製薬の主力商品であるフタアミンクリームの上上が低調に推移し減益
- ▶ 当第2四半期より約2,000社の薬店を対象にBtoBオンラインショップを開設し、タイムリーにキャンペーン情報などを届けられるよう取り組む

売上高



営業利益



## 第2四半期（中間期）業績 連結貸借対照表サマリー

（金額：百万円）

**TOABO**

連結貸借対照表	令和5年12月	令和6年6月	増減
流動資産	11,102	13,358	2,255
固定資産	23,352	23,920	568
資産合計	34,455	37,279	2,824
流動負債	9,126	10,958	1,831
固定負債	12,789	13,207	418
負債合計	21,915	24,165	2,250
株主資本	11,127	11,214	86
その他包括利益累計額	1,403	1,889	486
非支配株主持分	9	10	1
純資産合計	12,540	13,114	574
負債・純資産合計	34,455	37,279	2,824
（自己資本比率）	36.4%	35.2%	△1.2ポイント

# 第2四半期（中間期）業績 連結キャッシュフロー サマリー

# TOABO

（金額：百万円）

	令和5年6月累計	令和6年6月累計	
純利益	363	411	
減価償却費	185	187	
運転資金	△1,822	△2,061	<u>営業キャッシュフロー</u>
その他	△188	△341	主な減少要因：
営業CF	△1,461	△1,804	売上債権の増加 1,905百万円
			仕入債務の減少 180百万円
設備投資	△411	△183	<u>投資キャッシュフロー</u>
その他	△266	△136	主な減少要因：
投資CF	△678	△320	投資有価証券の取得による支出 97百万円
			有形固定資産の取得による支出 177百万円
長・短期借入金増減	2,278	2,401	<u>財務キャッシュフロー</u>
配当金	△97	△105	主な増加要因：
その他	△3	△92	長期借入による収入 2,450百万円
財務CF	2,178	2,202	短期借入金の純増加額 1,900百万円
CF増減	47	121	主な減少要因：
			長期借入金の返済による支出 1,947百万円

# 令和6年12月期 業績予想概要 (金額：百万円)



	実績	中期経営計画	予想	前期比増減率	計画対比
	令和5年12月期	令和6年12月期	令和6年12月期		
売上高	19,042	17,000	<b>18,300</b>	△3.9%	7.6%
営業利益	742	630	<b>650</b>	△12.5%	3.2%
営業利益率	3.9%	3.7%	<b>3.6%</b>	△0.3ポイント	△0.1ポイント
経常利益	811	550	<b>600</b>	△26.0%	9.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	573	330	<b>350</b>	△39.0%	6.1%

# トア紡グループのSDGs



## 環境にやさしい企業活動



### 令和5年度エネルギー管理優良事業者等 中部地方電気使用合理化委員会委員長表彰受賞

#### トア紡マテリアル株式会社 四日市工場

2024年2月、エネルギー使用合理化への取り組み（ガス焚き高効率ボイラーへの更新）が評価され、エネルギー管理優良事業者等として中部地方電気使用合理化委員会委員長表彰を受賞しました。

#### 改善項目 ガス焚き高効率ボイラーへの更新

#### 更新後の効果

省エネルギー化、CO<sub>2</sub>削減

エネルギー使用量  
(原油換算量)

**16.5%削減**

CO<sub>2</sub>排出量

**38.7%削減**

(ともに1年あたり)



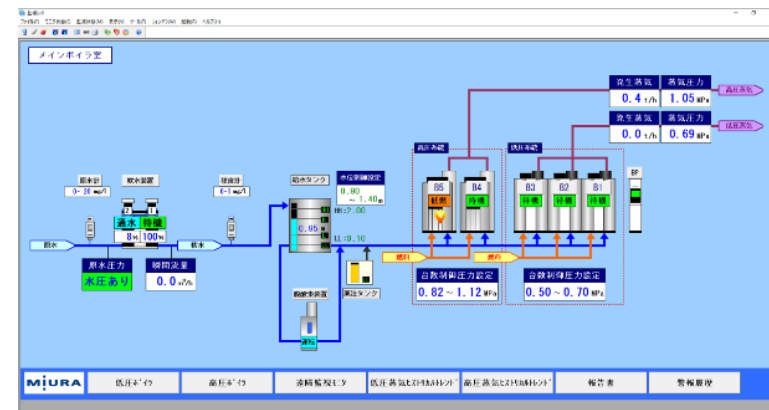
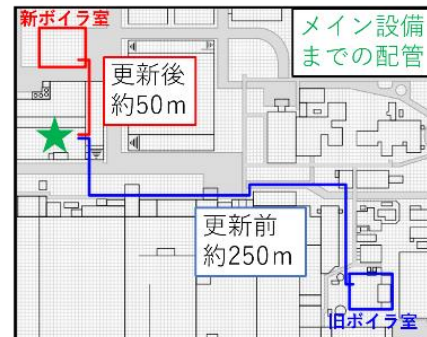
## 導入前の課題

- ▶ 従来の炉筒煙管ボイラー自体の効率が悪い
- ▶ 大型で負荷に応じた省エネルギー運転が困難
- ▶ 主要設備までの配管距離が長い
- ▶ CO<sub>2</sub>排出量を削減したい
- ▶ 運転操作が難しい



## 改善の内容

- ▶ ボイラー室の場所を変更  
⇒ 配管ルートを図の青から赤に短縮
- ▶ 燃料を都市ガスに更新  
⇒ CO<sub>2</sub>排出量を削減
- ▶ ボイラーを貫流ボイラーに更新  
⇒ 負荷状況に応じて運転パターンを変更する省エネルギー運転が可能に
- ▶ 稼働状況の遠隔監視システムを導入、活用  
⇒ 運転操作の難しさを解消、運転パターンの最適化  
各現場での必要圧力の見直し、送気系統の見直し  
など



## 循環型経済（Circular Economy）への貢献

### 炭素繊維のリサイクル

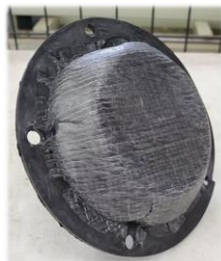
炭素繊維（CF）は軽量で高強度であることから、繊維強化プラスチック（CFRP）の材料として使用されています。CO<sub>2</sub>削減を目的として、使用量は今後ますます増えていくといわれています。しかし、生産時に多くのCO<sub>2</sub>を排出することも知られています。

我々は紡績技術を用い、短繊維であるリサイクルCFを糸にすることで再利用の可能性を広げ、リサイクルの循環に貢献することを目的として取り組みをスタートしました。

岐阜大学、三重大学、三重工業研究所との共同研究として環境再生保全機構（ERCA）の令和2年度環境研究総合推進費委託研究、また、経済産業省の令和5年度成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）として採択されています。



リサイクルCFの糸



成形品



リサイクラーが取り出したCFを利用





## 環境配慮の仕組みづくり



### 尾州発の新たな環境基準の確立を目指して

東亜紡織(株)と(株)ソーは、SDGsの達成に向けて『GREENWOOLバリューチェーン』を立ち上げ、『CSR、環境負荷低減と経済性の実現』をミッションとして、羊毛業界のグローバルスタンダードの確立を目指し、構築・運用を進めております。

現在、尾州の協力工場を中心に加盟が進んでおり、ケケン試験認証センターの支援を受けながらCSRの評価を実施するとともに、各サプライチェーンの使用エネルギー等を調査し、CO<sub>2</sub>排出量でベースとなる基準を策定し、目標を掲げられるように取り組んでおります。

### 2024年度取り組み状況

- ▶ CO<sub>2</sub>排出量を中心に環境負荷INDEXを作成中
- ▶ ブランド化の推進中  
(アパレルへの提案を準備中)
- ▶ 環境配慮取組アイコンを作成
- ▶ サプライチェーンではクリーンエネルギーへの変更を推進



本資料中の業績予想、見通し及び事業計画に関する記述等は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

本資料・データの無断転用はご遠慮ください。